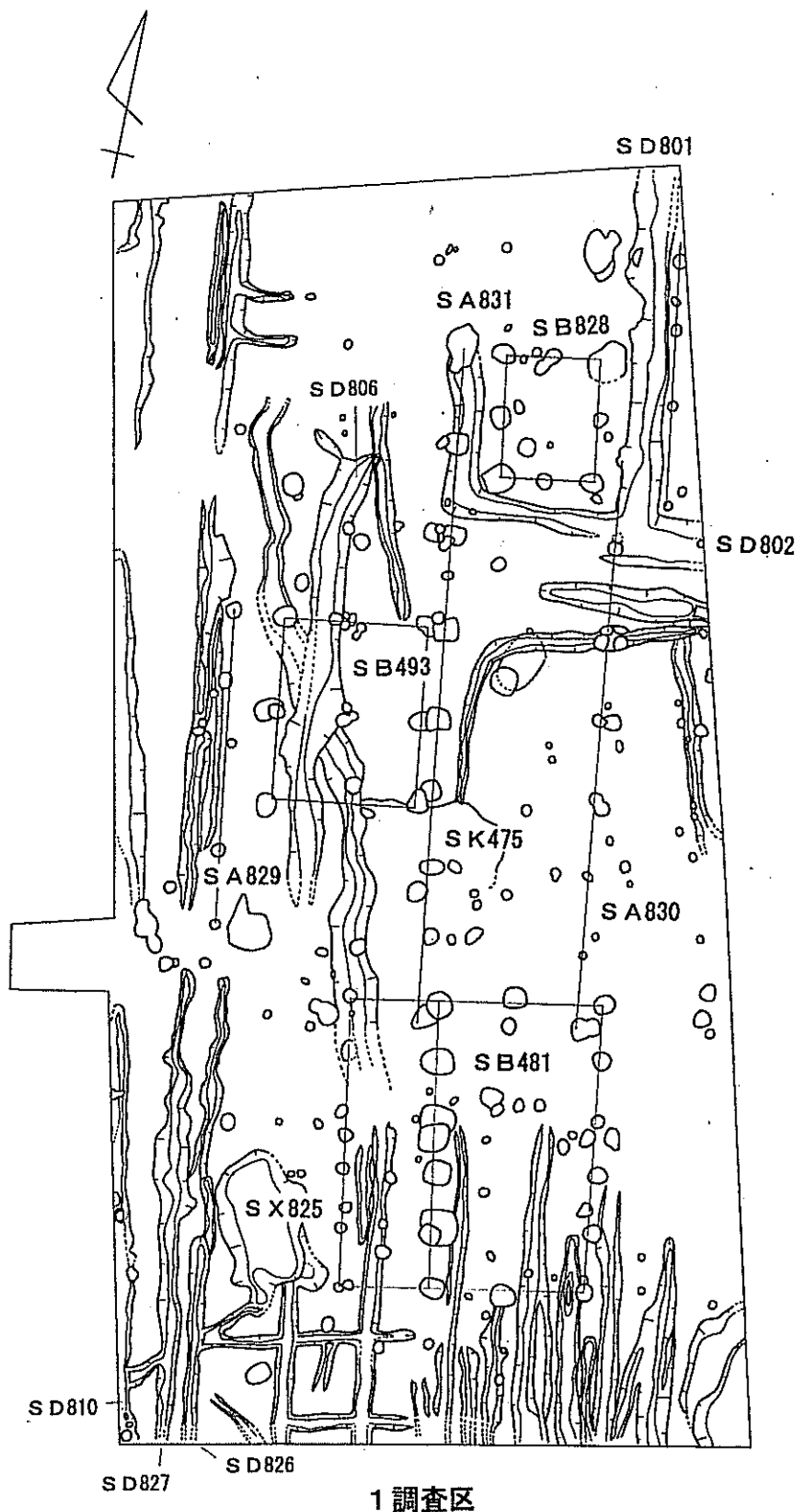
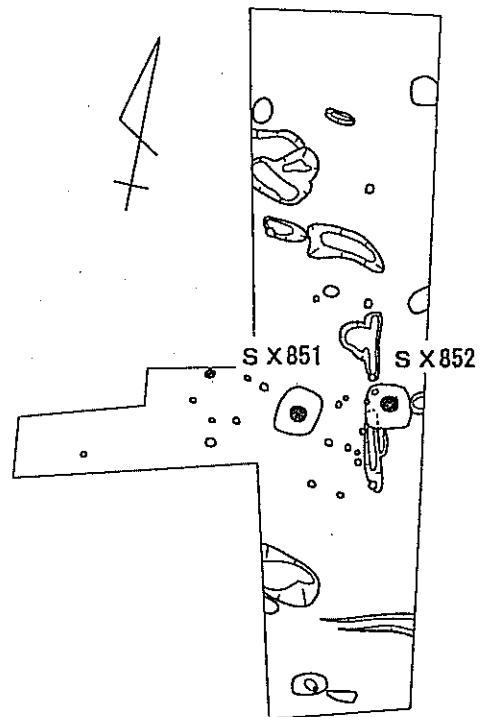


2 調査区



3 調査区

SA : 柵列 SB : 建物跡 SD : 溝状遺構 SK : 土坑 SX : 性格不明遺構

1 ~ 3 調査区遺構配置図 (1 : 200)

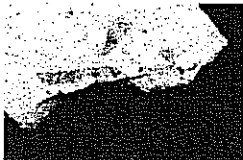
史跡

安芸国分寺跡 遺跡見学会資料

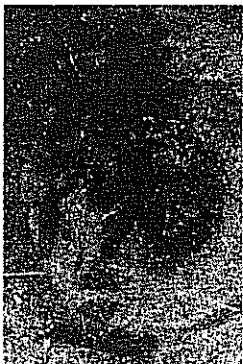
平成 15 年 9 月 27 日 14:00～
財団法人東広島市教育文化振興事業団
東 広 島 市 教 育 委 員 会



「？」



「講」



「講院三」



「大町中」



「院」



「院」



「講院カ」



「菌」

今回の調査で出土した墨書土器の墨書き部分

1 はじめに

東広島市教育委員会では、全国に 60 余建てられた貴重な歴史的文化遺産の一つである史跡安芸国分寺跡を保存・公開し、後世に継承するとともに、その活用を図ることを目的とした保存整備事業を平成 11 年度から進めています。

現在は、整備の基礎資料（建物跡をはじめとする多くの遺構の位置や規模・時期）を得るため、財団法人東広島市教育文化振興事業団（文化財センター）が発掘調査を実施しています。

2 遺構と遺物

今回の第 19 次調査は、寺域東側（1 調査区）と現仁王門付近（2・3 調査区）の 2 か所を行いました。1 調査区では第 12 次調査（2000 年度）で検出した建物跡の再確認を、また 2・3 調査区では回廊跡の確認のため 6 月から調査を行いました。

1 調査区 第 12 次調査で検出した掘立柱建物跡は、トレンチ調査のため建物の規模など詳細なことは明らかではありませんでした。このため、調査区を広げて調査した結果、3 棟の掘立柱建物跡を確認しました。

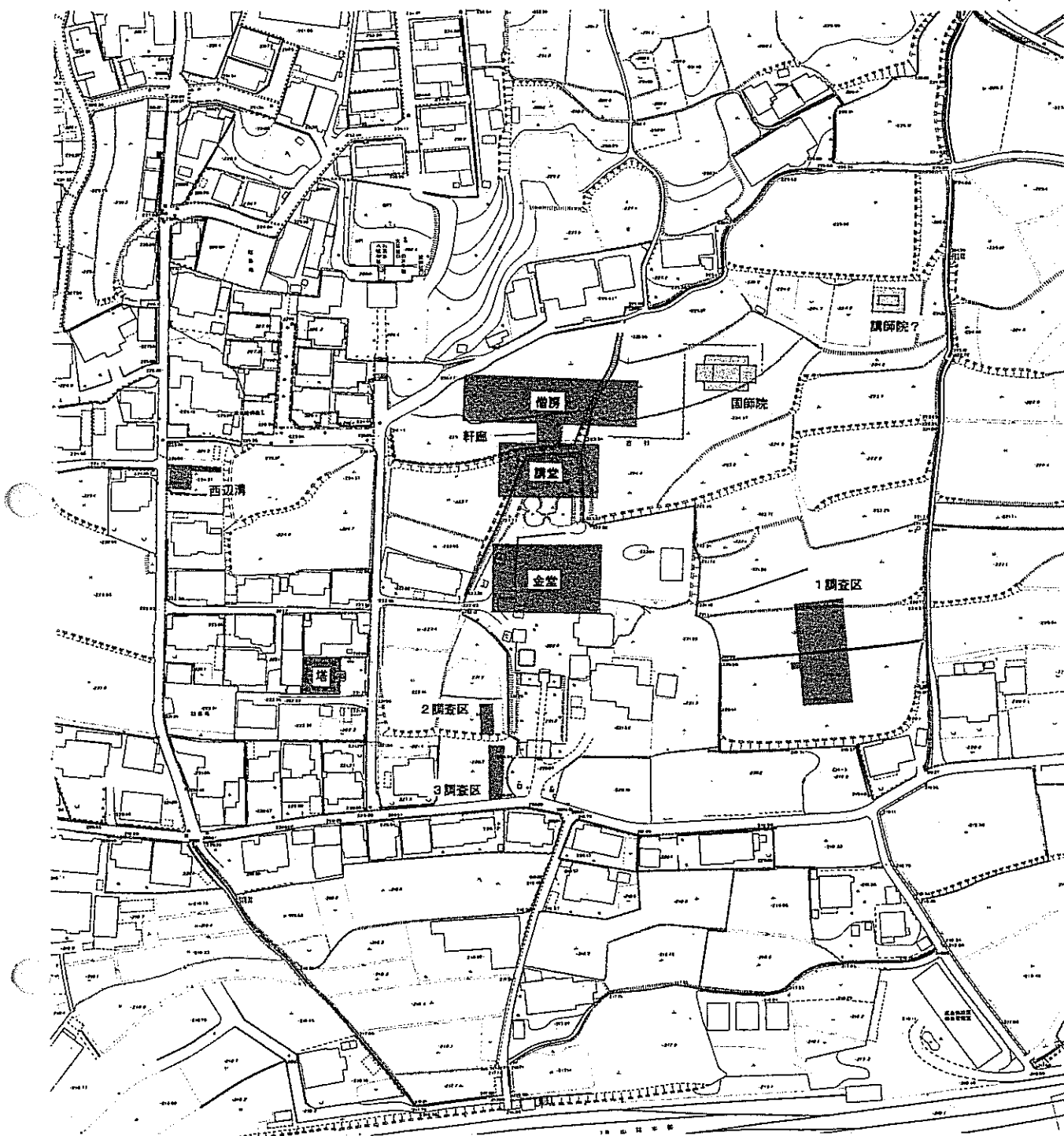
S B 481 は西側に庇をもつ南北に長い建物跡で、平面形がややゆがみ、柱間も短いことから、作業場のような臨時的な建物跡の可能性が考えられます。また S B 493 は南北にやや長い建物跡で、S B 828 は小規模な建物跡です。この S B 828 を囲むように巡る溝状遺構は雨落溝と考えられ、この溝状遺構から墨書土器などの遺物が出土しました。この他にも柵列などの遺構を検出しました。

出土した遺物としては瓦、須恵器、土師器、緑釉陶器などがあります。時期は 8 世紀後半から 9 世紀後半です。なお、須恵器のなかには壺や甕などの日常雑器が多く見られます。

2・3 調査区 回廊跡は確認できませんでした。S X 851・852 は遺構の状況から古代のものと考えられますが、その性格については不明です。なお、その他の遺構は中世から近世のものと考えられます。

3 まとめ

今回の調査では寺域東側で作業場のような臨時的な建物跡とともに、物置のような小規模の建物跡を確認しました。また、付近からは日常雑器を含む大量の遺物が出土しました。今回確認した建物の存在や出土遺物から、寺域内における空間的な利用状況の一端を知ることができました。



史跡安芸国分寺跡 主要遺構配置概要図及び調査区位置図

(1 : 2000)